



「スミテックF5スプレーSR “一住鋳潤滑剤”

油系潤滑剤やグリースが使用出来ない潤滑箇所には。

1. 透明な極薄い半乾燥状のフッ素系スプレー
2. 印刷機械のチェーンや油を嫌う潤滑箇所等に
3. エアーシリンダーのビビリ（潤滑不良）防止に
4. 使用温度範囲：-20～250℃

荷姿：スプレー330ml×6本 ※バラ出荷OK



「磐高物語」 19

まだ夏の暑い陽射しが残る初秋の頃だった。授業が早く終わった時などは、妹が通う中学校に向いて卓球部の部員の練習に付きあうようになっていた。

平駅のホームの階段を下りていくと、プラットホームの上に架かる屋根の支柱に寄りかかるように一人の高校生が立っていた。

紺の制服に白い桜のバッジ、磐城女子高校の生徒だということが一目で分かった。高校生は、二番線ホームから西日に身を委ねながら雲の流れを見ているのか、じつと遠くを眺めていた。

わたしには、操車場で黒い煙を吐きながら動いている機関車も汗を光らせて働いている操車員の姿も見えてはいなかった。ただ、彼女の黒い瞳の美しい横顔にきぎ付けになっていた。

やがて二番線ホームに下りの列車が、大きな車輪の蒸気機関車に引かれて入ってきた。わたしは、彼女と同じ車両に乗った。

『初恋』

最初の停車駅・草野駅では降りなかった。次の四ツ倉駅で一緒に降りたが、彼女はわたしとは反対方向のセメント工場がある方向に帰っていった。



四人組の一人、タカッシャンと二人で歩くと道すがらよく島崎藤村の「初恋」を詠ってくれた。

“まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり
中略

林檎畑の樹の下に
おのずからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ”
『タカッシャンはすげえなあ。良
く全部覚えてるよな、暗記力拔
群だ』

『そんなことはねえよ。ただこの
詩が好きなんだだけだよ』
『俺も好きになったよ。この詩』
『ターちゃん、好きな人出来たん
であんめ』わたしは、彼女の清楚
な横顔を思い出していた。

☆ あとがき ☆



あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。さて、今年は次のような言葉をたくさん集めようと思っています。

「助かったよ、ありがとう」「やっと見つかったよ。君のところまでやっているんだねえ」「お宅のグリースを使ったら上手くいったよ」「お薦めのギヤオイルを使ったら油温が下がり音は静かにその上コストダウン。サンキュー」